

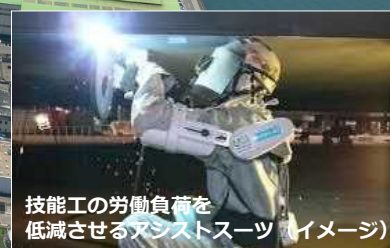
i-Shippingとj-Ocean

～「海事生産性革命」

強い産業、高い成長、豊かな地方～



AI等の革新的な技術を用いた
高効率な自動溶接機 (イメージ)



技能工の労働負荷を
低減させるアシストスーツ (イメージ)

- 造船の輸出拡大・海運の効率化を図り、自動運航船の導入も推進する「i-Shipping」。
- 海洋開発市場を獲得し、資源確保にも貢献する「j-Ocean」。
- 2つのプロジェクトからなる「海事生産性革命」をさらに強力に推進。

innovation/
information/IoT ...

■我が国を支える海事産業

- 【造船】 ● 国内部品調達85%
● 地方で生産93%
- 【海運】 ● 日本の輸出入貨物輸送99.6%

○船舶の開発・建造から運航に至る全てのフェーズにICTを取り入れ、造船・海運の競争力を向上させ、建造シェア拡大。

海事産業の既存リソースを
最大限に活用

相乗効果

新市場獲得で海事産業
の魅力・競争力向上

Japan/joint/J-Curve

■新たな市場である海洋開発分野

- 世界市場40兆円
- 今後の成長市場
- 日本の成長と資源確保に貢献

○海洋開発分野の施設等の設計、建造から操業に至るまで、幅広い分野で我が国海事産業の技術力、生産性等を向上。

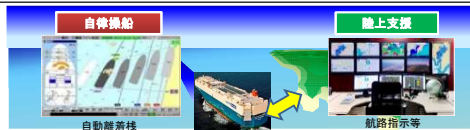
i-Shippingの取組

<Design>
✓ 新型開発をスピードアップ (数値シミュレーション技術の向上、拡大)

<Production>
✓ 生産の自動化、3D図面の活用
✓ 「工場見える化」で現場のムリ・ムダ・ムラを発見、徹底排除

<Operation>
✓ 顧客(海運)にとって生涯の高付加価値を追求

○自動運航船の導入 ⇒ 設計、建造、運航全てを革新



今後の取組
自動運航船に関する
要素技術の実証

造船の生産性50%向上、運航では燃料無駄遣い解消・故障ゼロを目指す

j-Oceanの取組

海洋開発分野は多くの船舶が用いられるため、我が国海事産業にとって重要。



※FPSO: 浮体式石油生産貯蔵積出設備
※O&M: 操業及び保守整備

短期的

✓人材育成の本格化

開発した専門教材を
大学で試用

✓技術開発の継続・強化
✓デジタルDXの活用

今後の取組
◆パッケージ化、コスト低減等付加価値の高い製品・サービスへの取組
◆我が国の世界最先端の技術(浮体式洋上風車等)の普及促進に向けた取組

✓O&M主体のDXも積極的に推進
✓オペレータ・エンジニアリング企業・造船・船用の連携強化

-AUV(海のドローン)に関するガイドライン策定等

中長期

O&M, エンジニアリング, 建造, 部品製造等を組み合わせ、プロジェクト全体を受注

造船の輸出拡大と地方創生

【現状】
建造シェア20%
売上2.4兆円

【2025年】
建造シェア30%
売上目標6兆円

海洋開発の市場獲得

【2010年代合計】
海洋開発分野の
売上見込 3.5兆円

【2020年代合計】
海洋開発分野の
売上目標 4.6兆円